



—東地中海地域ニュース—

トルコ：アブドゥッラー・ギョル大統領のイラク訪問

(3月24日現地各紙)

24日付現地紙は、アブドゥッラー・ギョル大統領のイラク訪問について報じている。概要以下の通り。

1. 3月23日、アブドゥッラー・ギョル大統領は、イラクのバグダードを公式訪問し、タラバーニー・イラク大統領と会談した。ギョル大統領は24日まで滞在し、マーリキー・イラク首相、ズィバーリー・イラク外相及びネチルバン・バルザーニー・クルディスタン地方政府(KRG)首相と会談する予定。今回の訪問にはテュズメン外国貿易担当相及びアタライ内相が同行した。トルコ大統領のイラク訪問は33年ぶりとなる。

2. 両大統領は会談後、共同記者会見において概要以下を述べた。

(1) アブドゥッラー・ギョル大統領

トラブルの元であった要因が取り除かれるべき時期が来た。我々はテロを根絶するために共同して取り組む必要がある。包括的な協力が必要であり、主にテロ組織指導部やキャンプが所在する地域に対して大部分の力が注がれるだろう。

(2) タラバーニー大統領

PKKのテロを根絶する事はイラクの国益に適っている。PKKは武器を置くか、イラク領土を去るべきである。

3. ギョル大統領はイラクへ向かう途上、同行記者に対し概要以下を述べた。

(1) 我々は、イラクの領土的一体性を重要視し、支持している。クルディスタン地方政府(KRG)関係者はPKKによるトルコ領域内のテロと戦っている我々を支援すべきである。

(2) クルド人は、トルコの支援を得る事と失う事の差異の重要性を理解すべきである。北イラク当局はPKKに関して必要な対策を講じるべきである。

(3) (ギョル大統領が「クルディスタン」の呼称を使用した事を指摘され)ギリシアがマケドニアという言葉を使用しないからといって、我々がマケドニアと呼称しない事はない。イラク憲法に記載されている「クルディスタン」との記述が正統であるべきで、イラク憲法に従ったままである。

【補足情報】

- 2006-04-04 AP は、イラク周辺国のアラブ諸国とトルコの治安当局者らが、イラクが内戦状態になった場合の対応などを、過去数週間にわたり協議していると報道。バハレーン、エジプト、ヨルダン、UAE、トルコなど。
- 2007-07-06 ダマスカスで、イラク・シリア・トルコの3カ国水資源技術委員会会合が開催された。同会合の開催は15年ぶり。シリアでは、6月末からダマスカス近郊の県で断水が発生している。
- 2008-02-21 トルコ軍（22日）は、イラク北部へのPKK討伐作戦を開始したと発表。規模は3000人-1万人。
- 2008-03-07 イラクのタラバーニ大統領は、トルコを訪問、ギュル大統領と会談。
- 2008-11-24 トルコ国営ニュースは、21日にMidyat付近の爆発で火災を起こしたイラクからの石油パイプラインの修理が終わり、原油の輸送が再開したと報道。
- 2009-02-26 トルコの大統領府は、ギュル大統領が来月、イランで開催される国際首脳会議に出席するために同国を訪問し、イラクも訪問する予定であることを明らかにした。
- 2009-03-23 トルコのギュル大統領は、2日間のイラク訪問を開始、タラバーニ大統領と会談した。その席でタラバーニ大統領は、同国北部に拠点を置くPKKに対して、武器を捨てるか国を去るか二者択一を迫る発言を行った。ギュル大統領は、PKK問題がイラクとの関係を悪化させる要因であるとして、テロに対して協働する必要性を強調した。1976年以来初となる。
- 2009-03-23 イラクを訪問しているトルコのギュル大統領は、イラクと「包括的経済パートナーシップ協定」に署名。